

令和7年度 学校自己評価書（川南町立山本小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価			結果の考察・分析および改善策等
			職員	保護者	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進						
1	家庭教育の充実に努める。 ・家庭教育の支援 ・個人面談等を生かした子育て不安等の解消	・個人面談やSC、SSW等との連携を図った家庭教育の支援を推進する。 ・家庭教育学級の研修会等で子育て支援を図る。	4.0	3.4	3.7	○家庭教育の支援として、かけ九九の習得や読み声等を行った。 ○積極的に家庭に連絡をし、連携を取れるよう努めている。また申し込みがあった場合、SC/SSWとの面談を設定している。 ●スクールカウンセラーからの情報を共有する時間が必要である。
	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域の人的、物的資源の積極的な活用 ・家庭と連携した健康教育、食育の充実 ・学校運営協議会委員を生かしたPTA活動の活性化	・学校と家庭、地域との連携を図った教育活動の推進を図る。 ・学校運営協議会や町教委からの指導・助言を生かした取組の推進を図る。	4.0	3.4		○保健室だより等を積極的に発信し、家庭と連携した健康教育・食育の充実に努めた。 ○登下校時の見守り活動や地域の方との調理実習、米作り体験、保護者によるキャリア教育の講話の実施を行った。新たに、三味線の鑑賞教室などにも取り組んでいる。 ●学校側のニーズだけではなく、地域の方が子どもたちに伝えたいという思いも受けていく必要がある。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進						
1	読書活動を推進する。 ・学校図書館活用の充実 ・町立図書館との連携 ・読み聞かせ、ファミリー読書の推進 ・各種作文応募、新聞等への投稿促進	・町図書支援員と連携し、図書室等の読書環境の整備と充実を図り、必要に応じ、町立図書館の活用を積極的に行う。 ・読み聞かせやファミリー読書に参加させる。 ・宮日新聞や子ども新聞の活用を図り、作文等の投稿を積極的に行う。	4.0	3.4		○学校図書司書と連携し、読み聞かせ会やスタンプラリー、ファミリー読書週間等読書活動を推進した。また、朝読の時間を活用した図書委員による低、中学年への読み聞かせ活動も行っている。 ○積極的な新聞投稿を行ったことで、多くの児童が掲載され意欲につながっている。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・「分かった、できた」と児童が自信をもって言える授業改善及び家庭学習の充実 ・望ましい学習習慣と読解力の育成（主題研） ・情報モラルを身に付け、ICTを活用できる児童の育成	・少人数を生かした授業を推進し、個別最適な指導方法の工夫改善を行う。 ・ひなたの学びにつながる授業改善を図る。 ・タブレットを活用し習熟の時間の充実を図る。	3.5	3.2		○L-Gateやデジタル教科書の活用をし習熟の時間にタブレット内にある問題を解かせたりすることにも取り組み、より「わかった、できた」と児童が実感できる授業改善を行った。 ●児童や教師がもっとICTにふれる環境づくりを行っていく必要がある。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・「山本小当たり前のこと3か条」の指導及び教育活動全般を通じて、自己肯定感の育成 ・いじめの未然防止及び自他の生命を大切にす道徳教育及び人権教育の推進	・月目標をもとに全校集会等で指導の焦点化を図り共通実践につなげていく。 ・教育相談及びハートフル委員会の活動を通じて、いじめの早期発見、解決及び未然防止に努める。	3.2	3.0		○全校集会等で、言葉遣いの大切さについて一斉指導し、さらに各学級でも共通した指導を行った。また、道徳の価値を生活につなげて指導したり、学級通信等で家庭に伝えたりしている。 ●当たり前3か条を実践に合わせて見直したり、参観日等で道徳の参観授業を実施したりするなど学校全体で共通した、称賛を取り入れた指導が必要である。
4	特別支援教育を推進する。 ・校内組織の充実及び関係機関との連携 ・個別の教育支援計画、指導計画の共有及びその活用 ・通級指導教室（川南小）との連携	・校内研修を実施、関係機関との連携等により教職員の専門性向上を図る。 ・校内支援体制を整え、効果的な支援員の配置や通級指導教室を含めた最適な学びの場の検討を行う。	3.4	3.0	3.4	○個別の支援・指導計画の計画的な作成や関係機関や通級指導教室との連携を図っていくことができた。 ●関係機関との連携を通した情報の共有を行うことで、共通した指導を行うことにつながる。情報共有の時間・場の確保をし、継続的で予防的な体制づくりが必要である。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・「みどりの少年団」の活動の充実 ・「Team Kawaminami学びのネットワークづくり事業（地域学校協働本部事業）」の活用	・みどりの少年団活動を年間を通して充実させ、学校の美化活動を自主的に取り組めるようにする。 ・「ふるさと学習」において、地域や地域人材とのかわりを充実することで学力向上へとつなげる。	3.7	3.3		○ボランティア活動が自主的にできており、総合での米作りや外掃除時間を活用した花いっぱい活動の取組でも積極的に動く児童が増えている。また、ミシン学習や福祉体験等で地域の方々に来ていただき学習を進めることができた。 ●朝ボラの参加状況に差があるので、賞賛や声かけ、指導が必要である。さらに、「総合的な学習の時間年間指導計画」の縦の系統を含めた見直しが必要である。
6	キャリア教育を推進する。 ・幼保小中との連携、及びキャリアパスポートの活用の推進 ・学年の発達段階を考慮したキャリア教育の見直しと計画的な実施	・計画的なキャリアパスポートの活用を図り、見直しをもったキャリア教育を進めていく。 ・地域人材を活用したキャリア教育の充実を図る。	3.6	3.2		○地域の方を招いての授業、保護者によるキャリア教育授業等は充実していた。 ●キャリアパスポートを用いた自己のめあての設定とふり返り活動の連携や総合的な学習の時間に組み込むなど年間を通した計画の見直しを図っていく。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICTを活用した授業づくりの推進 ・ALT活用による国際理解教育の推進	・ICTを活用した分かりやすい授業づくりを行う。 ・外国語活動におけるALTとの連携を図り、国際感覚をもったコミュニケーション力を高める授業づくりを行う。	3.6	3.2		○主題研において職員へのタブレット活用研修を実施し、研究授業においてもタブレットを活用する方法を提案することができた。 ●ICTに関しては、さらに児童がふれやすい環境づくりが必要である。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実						
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・「チーム山本小」としての組織的取組の推進 ・新しい研修制度を生かした教職員の資質向上の推進 ・業務の精選及びコンプライアンスの徹底	・学校組織マネジメントを活用し、学校組織の活性化を推進する。 ・校内研修の充実を図り、主体的に研修に取り組める環境整備に努める。 ・校務DX化を進め、児童を向き合う時間確保に努める。	3.5	3.3	3.6	○児童が「分かった、できた」と実感できた日々の授業づくりにつながる取り組みやすい研修が実践できた。 ○業務の精選を図るために、連携を取りながら臨機応変に変更し進めていくことができていた。 ●共通した指導ができるよう、連携していくこと、また情報を共有する場と時間の確保が必要である。さらに、チームとして、学校がよくなるために、互いに意思疎通を図り、それぞれができる改善を行っていく必要がある。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・「自分の命は自分で守る」安全教育・防災教育の充実 ・安全点検の効果的な実施 ・基本的な感染症対策の継続	・児童が主体的に行動できる実践的な防災教育等を推進する。 ・敷地内の環境について、職員、児童の目線で安全点検を実施する。	3.9	3.4		○早寝早起き朝ご飯の励行の奨励や熱中症予防の放送での呼びかけ、塩分タブレットの配付等安全、安心な教育環境の整備充実に努めることができた。 ●安全点検では、修繕場所や改善の共有ができるように写真等を活用し、共有していく必要がある。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進						
1	学校体育の推進に努める。 ・学校体育の充実による体力向上 ・地域スポーツ団体との連携や国民文化祭への作品応募や参加の推進	・「体力向上プラン」をもとに、分析結果を生かした体育の授業の充実を図る。 ・スポーツ少年団等との連携や文化・スポーツイベントへの積極的な参加奨励に努める。	3.8	3.6	3.7	○朝や業間を活用した運動の時間の確保ができた。 ●運動の提案はあったが、全クラスでの取組には差が見られたので、学校全体で行えるような体力づくりを推進していく必要がある。